

令和5年度 第3回阪南市市民協働推進委員会 会議録 (概要)

名称	令和5年度 第3回阪南市市民協働推進委員会
開催日時	令和6年3月28日(金) 午後6時～午後8時30分
開催場所	阪南市役所3階 第2委員会室
出席者	【阪南市市民協働推進委員会】 委員長 吉田 忠彦、副委員長 有田 典代、辰野委員、佐渡委員、奥野委員、山田委員、上瀧委員、 藤本委員 9人出席 【事務局】 政策共創室 室長 藤原、室長代理 御坊谷、総括主査 岩下、総括主事 根来
傍聴人数	0人
議題	・市民協働・共創事業提案制度 令和5年度事業実施状況について ・既存事業の取り扱いについて ・阪南市市民協働・共創事業提案制度実施要綱の改正について ・その他 市民活動センターからお知らせ 令和5年度の取り組み等について
資料	資料1 阪南市市民協働・共創事業提案制度 令和5年度継続実施状況 資料2 市民協働・共創事業提案制度 各事業評価シート 資料3 既存事業の取り扱いについて 資料4 阪南市市民協働・共創事業提案制度実施要綱 改正案について(まとめ) 資料5 阪南市市民協働・共創事業提案制度実施要綱 改正案
要旨	・市民協働・共創事業提案制度 令和5年度事業実施状況について (資料1・2に基づき、事務局から説明。) ・既存事業の取り扱いについて (資料3に基づき、事務局から説明。) ・阪南市市民協働・共創事業提案制度実施要綱の改正について (資料4・5に基づき、事務局から説明。) ・その他 市民活動センターからお知らせ(令和5年度の取り組み等について) (市民活動センターから説明。)
会議	【市民協働・共創事業提案制度 令和5年度事業実施状況について】 事務局 資料1・2に基づき、事務局より説明 (推進委員からの意見、質疑・応答) 委員長 いうことで、シティプロモーション課と一緒にこの1年でいろいろ作っていただいた。その繋がりを、ぜひ継承して、今後に発展させていきたい。 委員長 市の委託事業である以上、その成果を他者に売買することはできない。しかしながら、新しい発想でもある。反対にこう言った意見が委員会で挙がったという旨をお伝えすることはできる。団体の皆さんには、これまでの成果やノウハウを活用してまちづくりを試していただきたい。 副委員長 制作された映像コンテンツには、生き生きとした地元の人の映像が収められている。もっとプロモーションできれば良い。 委員長 プロモーション手法や活用方法は今後もぜひ検討いただきたい。 今後においても成果の活用方法やこんな発想はどうかという意見がありましたら是非お伝えしたい。 副委員長 事業評価について質問したい。いただいた資料2の25ページについて。阪南市コミュニティWEB配信「はなていｃｈ。」に係る事業の評価欄の最後の13番目。行政は「3」で評価、受託団体は「N」で評価している。つまりノーアンサー。平均値が「2」はおかしい。ここは「N」にすべきと思う。 委員長 「N」＝「0」という意味ではないが、Nとした理由を記入してもらえると、次に生かせると思う。 委員 受託団体として、評価シートに記入した。シートに「事業を継続する場合」という記載があったため、該当しない、つまりは「N」として記入した。理由欄は記入すべきだった。 委員長 書き方1つで伝わり方が異なる。例えば評価「1」や「N」など。この書き方は、ある意味問題提起をはらんでいて、それを考えることが大切。 何となく、ふわっと、よかったで、終わるのではなく、厳しい数字がなぜ記されているのか、その本意は何かを考えて、当事者に話を聞く。そして、問題点をある程度クリアしていく必要がある。 野外活動広場(桜の園)管理運営事業は、慎重に見ておく必要があると感じている。 また、阪南市コミュニティWEB配信「はなていｃｈ。」は、受託団体が2件続けて、同じ理由で継続しなかった。ある意味課題が非常にクリアになっている。しかしながら、予算が無い ため、無い袖は振れない。例えば、YouTubeのようにアマチュアの方に手を挙げてもらうなど

【既存事業の取り扱いについて】

事務局 資料3に基づき、事務局より説明

（推進委員からの意見、質疑・応答）

委員長 決して3年で事業を打ち切って止めてくださいという意味ではない。
すでに、市民協働事業を卒業して独自に実施している「本のリサイクル関連事業」は、地域で定着しているように思う。これまでに、協働事業を卒業、現在まで継続している事業は、市民の方に非常に喜ばれているものが多い。他の事業についても、何らかの形で定着していくのが望ましいが、ただ継続する訳にもいかない。
事業期間を最長3年とすることで一旦区切りをつけてもらう。そのため、既存団体には一定、丁寧な説明が必要。すでに事業実施している団体にとっては、寝耳に水とならないよう1年間の周知期間を設けたいということ。対象事業の数は、そう多く無い。1年あれば丁寧な説明ができると思う。

阪南市市民協働・共創事業提案制度実施要綱の改正について

事務局 資料4・5に基づき、事務局より説明

（推進委員からの意見、質疑・応答）

委員長 前回の意見を反映して、「新規用」と「再提案用」として様式を分けた。要所要所で注釈が入っていて非常にわかりやすくなると思う。
事業の目的、その下に最終年度の目標を書いてもらう。事業によっては、1年で終わるものもあれば、3年もあるため、一旦3年を想定している。必ずしも3年と限ってる訳ではなく、最終年度という表現に変更した。
資料5の52ページについて、協働・共創事業として1年目、2年目、3年目と書いてありますが、受取手によって解釈が異なるかもしれない。
団体として、すでに取り組んでいる事業があっても、協働共創事業として1年目の団体にとって、0年目の活動だよ、と記入してもらう。前回の意見に基づいて事務局で要綱改正案を作成した。委員の皆さんにおいてご意見、ご質問ありませんか。

副委員長 事業としては、1年目で団体としては3年目っていう言い方が、団体にとっても、わかりやすい。

この事業のために、初めてできた団体じゃないという方が沢山いる。この書き方だと2つの解釈ができる。「最終年度」とは何を指すのか。1つ目の考え方は、事業内容があって、何年で終了しますよと最初から決めているようなもの。協働・共創事業としての最終年度を指していることになる。

2つ目の解釈としては、いわゆるその最終目標から、考えてどのように解決に取り組むのか、めざすべき理想は何か、こういう形になって欲しいというインパクト指標というか。協働事業としての最終年度が終わるときの目標なのか。究極的な理想の姿のことを書けという

委員長 当該事業は基本的に3年で1セット。この最終年度っていうのは3年の上限を指すもの。そのセットでの「最終」となる。それを1年で完結する場合もあれば3年で団体と言う団体もある。

副委員長 いいえ。もう少し究極的な姿の話だと思います。

委員長 制度上事業期間を最長3年としています。一旦最終年度の目標は3年だと思っている。委員の皆さんご意見いかがでしょうか。

3年以内に終わる事業もあるかもしれませんが、「協働事業の最終年度」の評価ってということで考えている。場合によったら、さらにリニューアルして、2ラウンド目、3ラウンド目と続くこともある。

そういうケースも想定して、協働事業全体としてのめざすべき姿、あるべき姿を書いてもらうのか。委員の皆さんのご意見はいかがでしょうか。

協働事業としてのステップ1、ステップ2、ステップ3ってゴールに向けてっていうふうに書いてもらった上で自分たちの団体が何年事業実施しているかを括弧に記入してもらう。

例えば、ABCやステップワン、ツー、スリーでもいいと思う。

委員 当該制度の申請書は、団体が記入する分量が比較的多い書類だと思う。実際にこちらを書いた経験から言うと、今回の新規と既存を分けて申込書を作ると言っても微修正くらいの間隔。団体が書類を書く量自体はそんなに変わらない。だから、申請者側としては、書く量は特段問題ない。

申請後は、プレゼンの機会があると思うので、その団体が最終的に目指すべき姿とかビジョンみたいなものは、多分そこで発言されると思う。

委員長 あくまでも協働事業としての3年の考え方は、協働共創事業としての1セットにしようと。その認識でいいですか。その他、ご意見いかがでしょうか。新たにここも直して欲しい等あれば。

委員長 あと52ページの米印3について。米印1と2とどう違うのか分からない。どういう経緯で追加したんですか。

副委員長	3年で事業期間を区切ることは良いと思う。しかしながら、そうしたことで「3年」という言葉にこだわりすぎているように感じる。 例えば、資料5の46ページに現れている。わざわざ初めて申込するということに「最終年度の目標」を書かせなくてもいい。課題があって、目的がある。それをどう達成したいかっていうことだけでいいのであって、46ページ左側の欄にある「事業の詳細」は、達成目標みたいな表現でいいと思う。わざわざ最終年と書かなくても。 そのために52ページがある。申込書後半で、初年度は「何々をします」段階的に「こう発展しますよ」ということを書けばいい。いきなり最終年の目標とか数値書けとか、色々なことを求めない方がいいと思う。
副委員長	また、申請書類を見て思ったことがいくつかある。50ページの問5を見るとそこに「採択された協働事業について」と書いてある。 その前に「新規事業」と「再提案用」で2つに分けたことは、「新規事業」の場合は凄く書きやすく良いと思う。しかしながら、この「再提案用」は問題があると思っています。 まず、50ページの「事業の概要」と52ページで全く同じことを書かされる。 そして、再提案用の51ページと新規事業の45ページとフォーマットが同じだと、ここまで3年間取り組んだ事業について、自分たちが掲げた課題や目的を達成することができたか。ある程度取り組めたから、また改めて協働で取り組む必要がある、継続したいと言うことを求めるもの。そういう書き方にしてもらわないと。 さらに、現状・課題・目標となっていて、「これまでの事業評価を踏まえて」これまでの事業評価って何ですかって感じました。
副委員長	すごいわかりにくい。「協働事業としての3年目の目標」でもいいんですけど、これまでやってきて、何が達成できて、できなかったのか。こう言う意義があるので、今後も協働事業として継続したいですっていうことを書いてもらうものにすべきだと思う。 次のところでは、ステップとして3年区切られるなら、段階的にこういうことをやっていきたいですっていうことを、記入してもらって、何かやたらこの実施内容の左側のところとか、こんな下の欄のところの米印で書けばいいんであって、これにとらわれてしまう。年数にとらわれてしまう書き方を求めているなあと思って。団体側がためらってしまうんじゃないかな。そういう心配をしました。
副委員長	50ページ、52ページは、改めて欲しい。また、46ページの最終年という表現も、検討すべきではないかと思います。 「事業の詳細」の項目で「最終年度の目標」、「課題に対して何をどのように解決するか」、「数値目標」と併せて記載と言うと団体を数字で締め付けているように感じる。
委員長	ここは事業としてのビジョンを書いてほしい。そういう項目ですね。 それを踏まえて、下の実施内容のところで1年目、2年目、3年目のところで、具体の事を、書けばいいと思う。
副委員長	50ページの「過去に採択された事業」があって、その次51ページに団体概要があって流れが悪い。 「団体概要」を記入する51ページが表紙のようなもの。そのため、45ページと同じようなフォーマットに合わせてから、今の50ページ以降に続く流れっていく方がいいと思う。 50ページで概要をまとめるのは別にこれに採択されたっていう審査員の立場じゃなくてね。表現そのものがまず良くないと思って。これまでやってきた事業のことを聞くわけだから、何をどういうふうにしたかっていうことが知りたい。
委員長	この50ページは、協働共創事業で2年なり3年間の協働事業をやってみて、切り口を変えて、事業実施してもらおう。そして、3年以降はそのままの継続ではなくて、仕切り直しをして取り組みますという姿勢を表現してもらいたい。そのときに、これまでの事業評価を踏まえたという言い方が気になるということです。
副委員長	皆さんにお聞きしたいことがある。「再提案」という表現が、よくないと思っている。「再提案」という表現は、一度不採択になった人が、申請書類を修正して、再度申請するみたいな印象を受ける。 どうしたらわかりやすいか「継続事業」がいいのか。丁寧に言うと「継続事業の再申請書類」なんですけど。それだと長くなる。皆さんに表現を伺いたい。何かわかりやすい表現ありませんか。
委員長	そうですね。確かに「再提案」だとイメージが悪いように思う。一度駄目だった。やり直したっていうニュアンスに感じる。今回の場合は、むしろ進化してる。 申請書の初めに、これまで3年なり5年間、協働事業でこういうことをやってきました。こんな成果がありました。だから継続したいです。成果はあったけどこんな課題があったからこういうふうに変更して、次のシーズンもバージョンアップして頑張りたい。こうしていきたいんですっていうことが書けるような申請書類にしたいんじゃないかなと思います。 単なる継続じゃないんですよ。リニューアルとか進化とかバージョンアップとかね。 継続を前提として、改めて提案してもらおう。新展開、若しくはバージョンアップ、仮にそう変えていきましょう。

事務局	バージョンアップによる提案と言う意味がつながるよう、適切な表現を事務局でも検討させていただきます。 また、ご指摘がありました50ページと52ページの様式を同じように整える旨も事務局で改善させていただきます。 また、「最終年度」という表現については、「最終年度」とわざわざ言わなくても、協働事業としての3年を上限とする内容となっています。 行政では、「めざすべき姿」とか、硬い表現ではそういう風になりますけど。こちらは、団体にとって「何を実現したいのか」とか「実現できたらいいな」ということをご記入いただく様式。 そこから、1年目2年目3年目と続く訳だから、団体には、3年間で何を実現したいかっていうのを、ステップ1、ステップ2、ステップ3を書いてもらうイメージで事務局内で協議していきたいと思います。
委員長	ここまで沢山話が出たので一度整理しておきましょう。 まず46ページ。「最終年度の目標」（課題に対して何をどう解決するか）の部分。こちらをどういう風に表現しましょうか。 行政で言いますと「目指すべき姿」みたいなのは固い表現がありますけど、案の中で検討させていただこうかなと思うんですけど、逆にご提案ご意見等ありましたらお願いします。
委員長	事業としての目標みたいなものを具体的に書くのが「1年目・2年目・3年目」っていうところなんです。 そしたら、単純にして、そうですね課題に対して何をどのように解決するのか。 目指すべき姿って言ったら、どんなまちにしたいのか、子供たちが住みやすい町にしたいと言うのは課題解決の手段じゃない。もう一段、先中長期の、イメージを、ということですかね。 単純に上に事業の目的ってありますので、「事業の目標」みたいな形でさしていただきますようか。
副委員長	事業の詳細というところで、「現状と課題」があって、それに対して「目的」、「目標」と来ている。 言葉の意味として、目標の方が遠いゴールですよ。 中期、短期には何するかというのは目的っていうのが普通の使い方ですよ。 なんでむしろ並びで言うと、これは「目的」ですよ。
委員長	目的。その方がいいかもしれませんね。柔軟に考えてもらった方がいいのかな。「事業の目的」「最終年度の目標」とで並んでいますけど、それもいっその事削除してはどうですか。 「事業の目的や目標」ぐらいでまとめましょうか。 その時は、団体によっては具体的な数字目標、数値目標があったりしますよね。 現状と課題でも出してもらってます。本来であれば、「現状」を抑えて、「現状を見たうえの課題」っていうのを出しもらうんですが。「現状と課題」があるなら「事業の目的や目標」ぐらいにしといてはどうかなと思う。 （異議なし）
委員長	それでは続きまして、1年目2年目3年目の表現について、主に52ページ。「事業の詳細」っていうところは、重複するので3項目は削除。 この前、この50ページと52ページは同じことが書いてあるというお話でした。
副委員長	既存事業について、何年から何に取り組んだと書くところがある。既存事業の場合、開始から終了まで書いてもらわないといけませんね。
委員長	つまり再提案用の50ページは、過去数年間に渡って取り組んできたことを書いてもらう。今まで実施してどうだったか。これからの未来のことを書くみたいなシートではない。あくまでも、これまでの実績の部分。今まで取り組んできたことを書く振り返りシートのような自己評価にあたる。 また、これから取り組む事業については、52ページで書いてもらう。そういう整理ですね。
副委員長	具体的な事業期間の表現について。協働事業としては、3年で終了となる。しかしながら、団体本来の事業としては、その後も「継続」する場合もあるはず。 「事業期間」のところの表現を終了見込み期間ということで書いてもらう、3月31日とするか、2024年3月、それだけで十分じゃないですか。
委員長	（再提案用）50ページは、ある意味、協働事業に一旦区切りをつけてもらうためのもの。リニューアルすることを前提にこれだけやりましたの部分を書いてもらう。事業期間っていうのは、書いてもらった方がいい。始まりはもちろん、終わりも一旦書いてもらう如何ですか。
副委員長	継続事業だから、何年から何年まで5年取り組んだ、3年取り組んだが分かればいい。あくまで予定なので実際の日付と合致しなくてもいいのでは。
委員長	年度で考えると3月31日ということになるが、様式的にはどちらでも書けるように、和暦を抜いて年月日まで入れときましょうか。そうしましょう。わかりました。

事務局	3年以上継続する既存事業は、平和から始まった事業になるため、和暦の「平成」が入っている。訂正させていただきます。
委員長	それでは、「事業の課題」のところ。これは以前の様式から記載されている。先ほどの議論で「目標」に変更することになった。最初の対応のところは、評価ですね。 だから改善。 改善点と、これも事業の対応が2回も出てくるからね、これ左側も。 そしたら事業の評価、評価ってさしていただいた方がよろしいでしょうか。 次の下のところ。 だから上の事業の概要はいらないと思います。 それから下、下の太いのところは事業の自己評価。
事務局	これまで「事業の概要」であるとか、これまでの「事業の詳細」とか、これまでの「事業の評価」とかしていただいたら これ過去、これまでのことを書いてってことなんだなってわかるのかなと思いますので、この表現がいいかどうかあれなんですけどその趣旨がわかるような表現させていただいた方がいいのかなと思うんですいかがでしょうか。 団体の皆さんには、これまでの事業の事業の概要というのは、ここまで委員の皆さんが悩まれるということは、表現として分かりにくいのかなと思いました。 「これまでの事業の概要」、「これまでの事業の詳細」とか、それがね、いちいち言わなくたってさっき言ったみたいに過去に採択されたっていうこの表現をやめてこれまでの事業についてっていうことでしょ。 そうですねそれでもいい時間がいつだったか、その時の事業は、目的は何で何をしましたかって聞けばいいんじゃない。

【市民活動センターからお知らせ（令和5年度の取り組み等について）】

市民活動センター 市民活動センターより説明

（推進委員からの意見、質疑・応答）

委員長 市民からのアイディア提供から事業につなげる。そういった取り組みは良いことだと思います。

（全体を通しての推進委員からの意見、質疑・応答）

なし / 事務局（案）了承済

委員長 令和5年度第3回阪南市市民協働推進委員会を閉会とさせていただきます。
本日は、ありがとうございました。